

令和 8 年 2 月 2 7 日	病 害 虫 発 生 予 報 3 月 号	茨城県病虫害防除所
---------------------	--------------------------------------	-----------

農薬は、専用の保管庫で鍵をかけて適切に管理しましょう。

< 目 次 >

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
イチゴ：ハダニ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
促成ピーマン：うどんこ病・・・・・・・・・・・・・・・・	1
半促成ピーマン：アザミウマ類・・・・・・・・・・・・・・・・	2
促成トマト：黄化葉巻病（タバココナジラミ）・・・・・・・・	2
○サツマイモ基腐病の防除対策＜3月の管理作業＞・・・・・・・・	3
【その他の病虫害】	
イチゴ、促成ピーマン、促成トマト、促成キュウリ、春ハクサイ・・・・・・・・	4
II. 今月の気象予報・・・・・・・・・・・・・・・・	
最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの 「農薬登録情報提供システム」(https://pesticide.maff.go.jp/) で確認することができます。	
詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。Tel :0299-45-8200 ホームページでは病虫害・フェロモントラップ・農薬関連情報がご覧いただけます。 https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/	
※病虫害の発生状況や、適切な防除方法は地域により異なる可能性があります。病虫害の防除や農薬についてのご相談は、お住まいの都道府県にある病虫害防除所等の指導機関にお問い合わせください。	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2 月中旬現在、寄生葉率（本年値 34.5%、平年値 17.9%）は平年よりやや高い～高く、発生地点率（本年値 40%、平年値 59%）は平年よりやや低い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速く、多発すると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 天敵導入圃場では、ハダニ類や天敵の生息状況等をよく観察し、必要に応じて天敵の追加放飼を検討する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

（令和 7 年 12 月 23 日発表 病害虫速報 No. 7 参照）

促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 2 月中旬現在、発病度※（本年値 6.3、平年値 2.3）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 50%、平年値 45%）は平年並である。

※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤感受性の低下を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

半促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 2月中旬現在、寄生花率（本年値 18.0%、平年値 5.9%）は平年よりやや高く、一花あたりの寄生虫数（本年値 0.5 頭、平年値 0.2 頭）は平年よりやや多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルス病を媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 青色粘着板を 10a あたり 100～400 枚設置すると密度低減に有効である。
- ③ 薬剤散布は、薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成トマト

1. 黄化葉巻病（タバココナジラミ）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月中旬現在、発病株率（本年値 2.3%、平年値 0.3%）は平年より高く、発生地点率（本年値 44%、平年値 9%）は平年よりやや高い～高い。
- ② 2月中旬現在、一部圃場においてタバココナジラミ成虫の発生を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病株は伝染源となるため、速やかに抜き取り、適切に処分する。
- ② タバココナジラミは多発すると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ③ 媒介虫であるタバココナジラミの施設内への侵入および施設外への飛び出しを防ぐため、開口部に 0.4mm 目合い以下の防虫ネットを設置する。施設ビニルや防虫ネットに破損がある場合は必ず補修する。
- ④ 黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、タバココナジラミ成虫を捕殺する。
- ⑤ 雑草はタバココナジラミの生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。
- ⑥ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、タバココナジラミの薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑦ 黄化葉巻病耐病性品種は、ウイルスに感染しても発病は抑制されるが、感染株は本病の伝染源になるため、タバココナジラミの防除は感受性品種と同様に行う。

サツマイモ基腐病の防除対策

基腐病の発生を防ぐためには、病原菌を「持ち込まない」、「増やさない」、「残さない」対策が重要です。

総合的な防除対策

- ◎「持ち込まない」→ 健全な種苗の使用
- ◎「増やさない」→ 発病株の早期発見・防除、圃場の排水対策
- ◎「残さない」→ 収穫後の残さ対策、貯蔵中の管理

< 3月の管理作業 >

【健全な苗作り】～圃場に基腐病菌を持ち込まない対策を～

- （基本）ウイルスフリー苗を用い、土壌消毒をした圃場で苗の増殖を行う。
- 来歴が不明な種いもや切苗は絶対に使用しない。
(販売店で購入する場合は、基腐病対策が徹底されていることを確認する)
- 多発生地域からは、種いもや切苗を持ち込まない。
- 生産者間で種いもや切苗の譲渡は行わない。
- 苗床を定期的に巡回し、発病株の早期発見に努める。

※基腐病の発生が疑われる場合は、速やかに普及センターへ連絡してください。

【作業にあたって】

残さ、土を持ち込まない

- ・発生地域と行き来のあったコンテナ等は、洗浄してから使用する。
- ・農機具や長靴等についた土は丁寧に落とし、水でよく洗う。

【圃場の排水対策】～圃場で基腐病を増やさない対策を～

基腐病菌は水を介して移動するため、水が溜まりやすい圃場では、病原菌が侵入した場合、感染株が増加し、圃場内に病気がまん延しやすくなります。

- サブソイラ等で耕盤を破碎し、圃場の排水を促進しましょう。
- 排水対策は、本病のまん延防止だけでなく湿害の発生軽減にもつながります。

茨城県総合防除計画におけるサツマイモ基腐病の遵守事項

茨城県では、全国的に発生しているサツマイモ基腐病について、すべての農業者（家庭菜園を含む）の皆様に守っていただくルール（遵守事項）を定めました（令和5年4月1日に施行された改正植物防疫法に基づくものです）。

○遵守すべき事項

- ・県が実施するまん延防止のための調査に協力する。
- ・本病の発生を確認した場合には、関係機関へ連絡し、関係機関の指導の下、発病株を抜き取り、圃場（苗床を含む）外に持ち出す。
- ・本病発生圃場では、2年間、サツマイモを作付けしない（関係機関の指導の下、栽培管理する場合を除く）。
- ・本病発生圃場から種イモを採取しない。
- ・本病発生圃場では、発生の拡大が無いことを確認する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況および注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや多い	2月中旬現在、平年並～やや多い発生である。
ピーマン 促成	斑点病	発生量：平年並	2月中旬現在、平年並の発生である。
促成 トマト	黄化病	発生量：平年並	2月中旬現在、平年並の発生である。媒介虫であるコナジラミ類の防除を徹底する。
	灰色かび病		2月中旬現在、平年並の発生である。
キュウリ 促成	べと病	発生量：平年並 ～やや少ない	2月中旬現在、平年並～やや少ない発生である。
春 ハクサイ	べと病	発生量：平年並	2月中旬現在、平年並の発生である。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 2 月 28 日から 3 月 27 日)

気象庁 (2 月 26 日発表)

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)＞

[確率]

要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	関東甲信全域	20	30	50
降水量	関東甲信全域	40	30	30
日照時間	関東甲信全域	30	30	40

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

＜1 週目の予報＞ 2 月 28 日 (土曜日) から 3 月 6 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 80%

＜2 週目の予報＞ 3 月 7 日 (土曜日) から 3 月 13 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 50%

＜3 週目から 4 週目の予報＞ 3 月 14 日 (土曜日) から 3 月 27 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散（ドリフト）しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類（FRAC コード、IRAC コード）の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。